

第2回 国立天文台光赤外専門委員会 議事録案

日時：2010年11月2日(火) 11時-15時40分(昼食休憩1時間含む)

場所：国立天文台(三鷹)講義室

(ハワイ観測所、岡山観測所、京都大、大阪市大、宇宙研、とTV会議接続)

[出席者]

有本信雄、*家正則、市川伸一、伊藤洋一、泉浦秀行(TV)、臼田知史(TV)、
神田展行(TV)、*郷田直輝、小宮山裕、*櫻井隆、佐藤文衛、嶋作一大、
*高見英樹(TV)、竹田洋一、*田村元秀、長田哲也(TV)、*藤本眞克、
松原英雄(TV)、山下卓也、山田亨、吉田道利

[欠席者]

*水本好彦、

「*」印はEX Officio(陪席するプロジェクト長等)

0. はじめに

資料1に基づき8月に行われた第一回と第二回(臨時)の本委員会の議事録が確認され、軽微な文言の不備が指摘されたものの基本的に了承された。これはまだ公的な場には出されていないが、今度から議事録は固まり次第なるべく早く運営委員会に提出する。

また、EX Officioメンバーに初回の委員会のときに不手際で案内が行かなかったことにからんで、その位置づけ(正式な委員との違い)について意見が交換された。基本的に毎回陪席を求められるメンバーではあるが、日程調整等の際には正規の委員の都合の方を優先する。なお、最近の重力波プロジェクト推進室長の交代に因み、本委員会の当プロジェクト代表EX Officioも今回から(以前の川村静児氏に替わって)藤本眞克氏になった。

1. 報告

1-1. JASMINE 計画現状報告

郷田 JASMINE 検討室長より資料2に基づき、JASMINE 計画の現況が説明された。計画シリーズ(Nano/小型/中型-JASMINE)の概要、Nano-JASMINE 打ち上げの正式決定、バルジ観測に関する国際協力(APOGEE 計画との連携等)、開発状況と課題、目指すサイエンス、など。

1-2. すばる小委員会報告

有本委員(すばる小委員会委員長)より、資料10の議事録に沿って、7月と9月のすばる小委員会で議論された具体的な内容が報告された。

ハワイ連絡会の設置、ALMA-Subaru WS、すばる・TMT一般向け講演会、次期装置計画WS、HSCやPSF計画の進捗状況、FMOS戦略枠、今後のすばる望遠鏡のありかた、など。

1-3. TMT をめぐる情勢について

家 TMT プロジェクト室長から資料 7 に沿って TMT 計画の最近の動向の説明があった。米国の国立研究評議会の Decadal Report で、複合鏡式大望遠鏡建設の推進が勧告された一方で、NSF の出資には TMT か GMT のいずれか一方の選択が勧告されたこと、我が国の学術会議の作業部会の審議でも TMT 計画は高い評価を受けたこと、つい最近の NSF の大型共同利用施設の予算化に関する委員会に出席した報告、ALMA の次の国立天文台の大型計画として TMT をぜひ実現させたいので全国の研究者の支援・協力をお願いしたい、など。

2. 議題

2-1. TMT 推進小委員会委員選出

山田委員（光赤天連委員長）より、本委員会で設置が承認されて提案書（資料 8）もすでに提出された TMT 推進小委員会の外部委員の推薦投票をメールで行ったこと、その結果に基づき光赤天連から推薦することになった候補者のリスト（資料 6）が報告された。これに基づき議論を行い、委員就任を依頼する 13 名（外部委員 8 名と内部委員 5 名）が以下のように決定した。

[外部委員]

秋山正幸（東北大）、伊藤洋一（神戸大）、大内正巳（東京大）、
岡本美子（茨城大）、川端弘治（広島大）、土居守（東京大）、
長尾透（愛媛大→京都大）、山田亨（東北大）

[内部委員（国立天文台）]

井口聖、柏川伸成、小杉城治、田村元秀、宮崎聡

2-2. UH88 日本人時間について

山田委員より、第一回目の本委員会でも話題に出た、ハワイ大学 2.2m 望遠鏡の日本人時間（国立天文台が望遠鏡時間を買って日本人研究者に提供すること、今年度で予定していた三年間の予算が切れる）を来年以降も継続してほしいというコミュニティの希望が強いことに鑑み、また来年度に予定されるすばる望遠鏡の大規模なダウンタイムの補填としても意義深いことなので、光赤天連から国立天文台長宛に継続の要望書（資料 3）を提出したことが報告された。ただまだ何も反応がないとのことなので、これから実現へ向けての予算確保を目指すには具体的にどのように進めるべきかについて議論がなされた。ハワイ観測所など国立天文台のプロジェクトが主体になって予算請求すべきだ、大学間連携の概算要求が通った場合それをこちらに回せないか、など色々な意見の交換があった。山下委員長が来年度の天文台予算の検討に間に合うように天文台首脳部に予算措置の希望を出すことになった。

2-3. 光赤天連における岡山観測所運用方針に関する議論の報告

国立天文台執行部から提示された「今後の岡山観測所の運用方針案」に端を発して、本委員会でも前回と前々回で議論を尽くしてこの天文台案に対して委員会として答申すべき文書を作成したが（資料 9）、一方光赤天連としても本年 9 月の日本天文学会年会（金沢大）の

際にこの件に対する光赤外コミュニティのメンバーの声を聞く機会を設け、9月22日の岡山将来計画ミーティング（資料4）と9月24日の総会を経て、光赤天連としての見解をまとめた（資料5）ことが山田委員（光赤天連委員長）より報告された。全国共同利用機関である国立天文台はわが国の天文学の教育研究の基盤形成（具体的には大学間連携支援と中小口径望遠鏡共同利用など）を担うべきであろうという視点から、京大3.8m鏡完成の後も岡山観測所のサイトは国立天文台が引き続き維持してほしい、188cm鏡など現有の観測機器を用いて研究を続けているグループにも可能な限り配慮してサイエンス継続の手段を講じてほしい、などを述べて国立天文台長に提出したもので、基本的には本委員会の答申書の内容を支持するものである。これに対して大学における天文教育の目的・意義について意見が交換された。またこれからのアクションについてもいくつか意見が出された、「天文台と京都大学の話し合いの結果を見ないと何もできないのでまずそれを待とう」、「1.9m→3.8mの移行をスムーズに行うためのWGを立ち上げてはどうか」、「今後の岡山で期待されるサイエンスの新たなアイデアの受付窓口がほしい」「新たなグループを設けて複雑にするよりもむしろ現在の岡山TAC（プログラム小委員会）にそういう機能を付与すればいいのでは」、など。

3. その他

3-1. 10月1日付けで岡山観測所長に着任した泉浦委員より就任の挨拶と「色々な問題があるが努力して乗り越えるのでご協力をお願いしたい」との決意表明があった。また本委員会では岡山観測所所長はデフォルトでEX Officioとして加わる慣わしであるが、泉浦氏は当初委員で選任された経緯もあるのでこのまま正規の委員として扱われることになった。

3-2. 次回委員会の日程

次回の第4回光赤外専門委員会は来年3月3日（木）に開催する予定。

配付資料

1. 第一回、第二回（臨時）光赤外専門委員会議事録
 2. JASMINE 計画シリーズの進捗状況報告
 3. 光赤天連報告③要望書「ハワイ大学 2.2m 望遠鏡共同利用の継続について」
 4. 光赤天連報告②-1 岡山将来計画ミーティングでの議論
 5. 光赤天連報告②-2 光赤天連による岡山観測所運用方針に対する見解まとめ
 6. 光赤天連報告①TMT 推進小委員会委員（2010-2011年度）推薦投票報告
 7. TMT をめぐる情勢について
 8. TMT 推進小委員会設置の提案書
 9. 岡山天体物理観測所の今後の運用方針について
 10. 第3回、第4回すばる小委員会議事録
-